

国語

7/14 (土)

小説読解の極意
『君が文豪になれ！』

授業を体験する。

10:05 ~ 10:45(予定)

辻 孝宗

小説読解の問題に取り組む生徒から、当たりはずれが大きいとよく聞きます。こんな感じです。「先生…小説の読解の問題、当たる時は、当たるんですけど、間違える時は、ごうかひに間違えてしまうんですよ。それもね、自分の答えでも良さそうなんです。何でこの答えがダメなのかもよく分からないけど…、でもまあ、ある程度点数は取れるから、このままでいいですよ。点数取れる時は取れるわけだし…」…ちょっと待った!!!この当たったとか、はずれたとか、これって読解なのかなあ？これは読解ではない!!!たまたま当たっただけ、たまたまはずれただけですよ。読解とは、ずばり『名探偵』になることです！

国語も答えは絶対に一つ!!その答え(犯人)をつかまえるために、徹底的に、本文からヒント(容疑者)を洗い出して、はじめて見る問題の、ただ一つの答え(犯人)をつかまえるわけです。今回はたまたま当たった、たまたま間違えたといって、間違った答え(犯人)を出してしまったら名探偵失格ですよ!そのために、その一つの答え(犯人)をつかまえるためにどうするのか?ここでこの授業では一つのミッションを与えます。それは、何と…「君たちに『文豪』になってもらう!!」ということです。国語の問題になるような文章を書く文豪たちが、どんなふう文章を書いているのか、それを体験してもらいます。どんなふう文豪たちが書いているかを体験することは、どのように読解をしてほしいと思って文豪たちが文章を書いているのかを知ることになります。その、書くことを体験するからこそつかまえられる。解く時のポイント。これを、一緒に考えてみましょう!君たちが文豪となって、小説読解の極意をつかむのだ!